市民意見提出制度（パブリックコメント）の実施結果と市の考え方について

「八尾市地域防災計画」を修正するにあたり、八尾市市民参画と協働のまちづくり基本条例第12条の規定に基づき、修正素案を公表し、市民意見提出制度（パブリックコメント）を実施しましたので、その結果と提出された市民意見に対する市の考え方を公表します。

1 集計結果等

(1) 意見募集期間

令和6年12月16日（月）～令和7年1月15日（水）

(2) 提出方法別の提出人数及び意見数

提出方法	提出人数（人）	意見数（件）
直接持参	0	0
電子申請システム	2	2
電子メール	0	0
F A X	0	0
郵便	0	0
合計	2	2

2 提出された市民意見と市の考え方

No.	該当箇所	意見・提言内容（原文）	市の考え方	修正の有無
1	第2部 第5編 災害 対策共通 第4章 避 難受入れ活動 (P159～P178)	<p>P171 避難所の開設 7 避難者の健康状態 エコノミークラス症候群だけでなく 排泄生活環 境栄養摂取基準に沿った生活環境により低栄養脱 水生活習慣病貧血高血圧など起きないように努め る</p> <p>避難所の機能役割 水食糧 日本食料自給率 資 源ないので待っていてもないと思います。 修理する人手も育ててませんよね 配給制度終わってますやん 食糧も食品構成に合わせて作ってませんし栄養所 要量など制度変わっています。 多様な食文化 宗教 咀嚼嚥下食 基礎疾患の療 養食 大人用もこども用も経管濃厚流動なども必 要ですよ。</p> <p>大八車とかあるんですか？ 略奪されずにできるのですか？</p> <p>食育基本法で地域福祉とともに教育委員会社会教 育主事と地域で学び合っ 児童民生委員 食生 活改善推進委員 スポーツ推進委員などと常日頃 の公民館活動 社会体育 生涯学習の応用発展だ と 思うのですけどね。</p> <p>なぜ食育基本計画 地域福祉計画に事前準備から リンクしていないのか</p>	<p>大規模災害時、市は被災者の健康状態及び栄 養状態を十分に把握するとともに、助言、加療 等被災者の健康維持に必要な活動を行います。</p> <p>また、避難所及び市の備蓄倉庫には飲料水・ 食料等の備蓄やリヤカー等の資機材を一定数 備蓄・配備しており、災害時には市より避難者 に必要な備蓄等を配布することになっており ます。市の食料備蓄は、高齢者等に配慮したお かゆ食や、乳幼児用のミルクに加え、アレルギー 対応食やハラル食も備蓄しておりますが、 全てを賄うことは困難であるため、必要な備蓄 等については状況に応じて国・府・防災協定締 結事業者等から調達する想定をしています。</p> <p>なお、地域防災計画につきましては、本市の 行政運営の基本となる総合計画をはじめ、部門 毎に策定される各種計画との連携・整合に今後 も努めてまいります。</p>	無

No.	該当箇所	意見・提言内容（原文）	市の考え方	修正の有無
2	第1部 第2編 予防対策 第2章 災害応急対策・復旧対策への備えの充実 (P72～P118)	<p>下記項目の素案への追加を提案させていただきます。</p> <p>項目</p> <p>① 学校、保育所、社会教育施設、病院等における地盤特性(液状化リスク)に応じた避難計画誘導體制の見直し</p> <p>②地域の避難場所となる校庭/公園の安全化(地盤改良)</p> <p>提案の背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の大部分が液状化の可能性が極めて高いと評価されているにも関わらず、一時避難先が依然慣例に則り、園庭や校庭とされている ・過去の地震でも避難中にグラウンドの地割れに挟まれ亡くなった児童がいる等、液状化/地割れの可能性が高いグラウンドを一時避難所として採用するのは適当と言い難いのではないかと※1 ・また、南海トラフで半割れが起こった場合、グラウンドへの避難完了後に2度目の大地震が起こり児童への被害が拡大する恐れもあり、適切に耐震化された体育館や校舎がある場合、地震の際は屋内避難を第一選択とする可能性もあるのでは ・上記をふまえ、専門家等を交えた避難計画の再検討や各社会施設等との連携を行うこと、また、必要に応じ校庭や公園等避難場所の地盤改良を行うことで、安全に屋外退避可能とする計画を盛り込むことが必要ではないかと <p>※1 過去の地震における液状化による人的被害 http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00578/2003/27-0049.pdf</p>	<p>国の中央防災会議防災対策実行会議の下に設置された「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」では、地盤モデル等の見直しや新たな被害想定に向けた計算手法を現在、検討しているとともに、各専門分野での研究も進められているところです。今後も、それらの動向等に注視してまいります。</p>	無